編 集 後 記

藍野学院紀要第24巻が完成しましたのでお届けいたします。

論文数は5編ですが，外池光雄先生の最新のブレインサイエンスの話題をはじめ，佐々木恵雲先生の50ページにも及ぶ生と死についての総説，狩野良太先生らによる4年間に渡る臨床現場での取り組みの報告，南部登志江先生らの看護における「タッチ」に関する論説，そして岸田秀樹先生の「曾根崎心中」を題材にした自殺についての社会学的な分析，いずれも大変興味深い内容で力作ぞろいであります。

最後に挙げた岸田先生の論文ですが，昨年（平成23年），先生が永眠されたため，はからずも絶筆となってしまいました。先生は病床にまでパソコンを持ち込んで，闘病生活の傍ら最後まで執筆されていたそうです。残念でならないのは，発行の遅れによって，先生に完成した本誌を手に取って御覧いただけなかったことであります。これはひとえに私の怠慢によるものであり，まことに慚愧に堪えません。

編集後記を書くにあたり，改めてご遺稿を拝読させていただきました。江戸時代，心中という自殺の形態をもてはやしてきた人々，なかでも大阪の庶民に流れる気質は現在にも通じるものがあり，そのことを理解せずして自殺対策は成り立たないという警鐘は拝聴に値する論点であります。誤解を恐れず言ってしまうと愛について知らずして自殺は語れないということでしょうか。

災害や疾病にてむりやり奪われる命がある一方で，自らの命を捨ててしまう人がいる。自分自身が苦しい病床にあって岸田先生の想いはいかばかりであったか。それでもなお自殺する人の心の動きを理解しようと研究を続けられた先生の姿に深く感動いたしました。

最後にとても印象的な結語を引用させていただきます。

『しかし，だれが何と言おうと，ヒトは愛なくして生きることのできない動物であり，愛の形は多様かつ複雑である。大阪は今も，自らを賭けて愛の形を探求し，育む人々が賑やかに住まう，恋の街であり続けている』

つつしんで先生のご冥福をお祈りいたします。

最後になりましたが，著者のみなさまをはじめ，快く査読をお引き受けいただいた先生方，そして膨大な事務処理を黙々とこなされた事務局の方々に深く御礼申し上げます。

（藍野紀要編集実施委員長：田中俊典）

藍野学院紀要　第24巻

平成24年3月31日

編集兼発行者　学校法人　藍野学院
〒567－0012
大阪府茨木市東太田4－5－4
電話（072）627－1711㈹

印　　刷　明文舎印刷株式会社
〒601－8316
京都市南区吉祥院池ノ内町10
電話（075）681－2741